

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成19年3月8日(2007.3.8)

【公開番号】特開2001-239016(P2001-239016A)

【公開日】平成13年9月4日(2001.9.4)

【出願番号】特願2000-11112(P2000-11112)

【国際特許分類】

**A 6 3 F 7/02 (2006.01)**

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成19年1月18日(2007.1.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】複数の図柄を可変表示可能な複数の図柄表示部を備え、それらの図柄表示部に図柄を表示し、大当たり図柄が確定表示されると大当たりになる可変表示ゲームを行う遊技機であって、

前記複数の図柄には同じ図形姿態である原図柄と回転図柄を含み、

前記原図柄を回転すると回転図柄になり、前記回転図柄を回転すると原図柄になり、

前記原図柄と回転図柄を図柄表示部に表示して可変表示ゲームをすることを特徴とする遊技機。

【請求項2】前記大当たり図柄が原図柄と回転図柄では、大当たりが終了後の大当たりを生起する確率が異なる場合があるように設定してあることを特徴とする請求項1の遊技機。

【請求項3】前記大当たり図柄が一旦停止表示した後に、原図柄が回転図柄に変更表示される場合があることを特徴とする請求項1又は請求項2の遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0 0 0 4】**

【課題を解決するための手段】

請求項1の遊技機は、複数の図柄を可変表示可能な複数の図柄表示部を備え、それらの図柄表示部に図柄を表示し、大当たり図柄が確定表示されると大当たりになる可変表示ゲームを行う。

又、図柄表示部に表示する複数の図柄には同じ図形姿態である原図柄と回転図柄を含み、原図柄を回転すると回転図柄になり、前記回転図柄を回転すると原図柄になり、それらの原図柄と回転図柄を図柄表示部に表示して可変表示ゲームをする。

尚、原図柄と回転図柄の回転による関係とは、例えば、図2に示すように、7セグメントで表示する「2」と「5」であり、それらの図柄は、水平軸に対して対称であるので、水平軸で回転することによって、相互の図柄になることをいう。

又、請求項2の遊技機は、大当たり図柄が原図柄と回転図柄では大当たりが終了後の大当たりを生起する確率が異なる場合があるように設定してある。

又、請求項3の遊技機は、大当たり図柄が一旦停止表示した後に、原図柄が回転図柄に変更表示される場合がある。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

【発明の効果】

請求項1の遊技機は、図柄表示部に表示の図柄に、回転により原図柄と回転図柄になるものを含んでいるので、それらの図柄を表示ゲームに採用することによって、新たな面白味を発揮できる。

又、請求項2の遊技機は、回転により変更される原図柄と回転図柄とで、大当たりが終了後の大当たりを生起する確率を異にすることによって、遊技者にとって、有意義な遊技機となる。

又、請求項3の遊技機は、大当たり図柄が一旦停止表示した後に、原図柄が回転図柄に変更表示される場合があるので、最終的に、何れの図柄が表示されるか、興味の向上を図ることができる。